

視覚障害者・高齢視覚障害者の自立型読書をサポートするための研修

社会福祉法人 桜雲会

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-11-14-102

助成事業の概要

障害や加齢を理由に読書を断念してしまう方がいる中、自力での読書を可能にする最新の機器・端末や補助用具の活用、また適切なサポートを受けることで、「自立型読書」が可能となります。これまで代読型読書に頼るしか方法が無かった視覚に障害のある人にとって、「読書の自由」やプライバシーを確保する手段を得ることへと繋がります。その実現へ向けた機器の活用法や様々な読書術を紹介する講演会を、平成 26 年 11 月 1 日・2 日・3 日に開かれる視覚障害者向け総合イベント「サイトワールド 2014」内で実施します。さらにその中で、大きな文字で読みやすく、視覚以外の感覚（触覚等）を生かした本「バリアフリー図書」の展示会も併せて開催します。本事業を通して視覚に障害のある当事者・高齢者をはじめ、福祉関係者や教育関係者にも参加して頂き、自立型読書の実現に向けた普及・啓発や、適切なアドバイスやサポートができる人材育成を目的とした周囲の体制作りを構築するのが狙いです。

事業の成果

「サイトワールド 2014」11 月 1 日・2 日 場所：すみだ産業会館サンライズホール 9 階 会議室 3

① シンポジウムの開催

「サイトワールド 2014」内で 1 日・2 日を通して「見えない・見えにくくなってきた人の自立型読書をサポートするセミナー」と題し、拡大鏡や拡

大読書機、タブレット型端末などを活用した読書術について 4 名の講師による講演会を実施しました。

・拡大読書機や拡大鏡（ルーペ）を活用する読書術 講師：森田茂樹（ロービジョン当事者）

・バリアフリー図書やサピエ図書館を活用する読書術 講師：服部敦司（バリアフリー資料リソースセンター理事長）

・タブレット型端末を活用する読書術 講師：三宅洋信（ロービジョン当事者）

・ヘレン・ケラースマホによる体表点字の読書術 講師：長谷川貞夫（桜雲会 理事）

当日使用した部屋は講演時の来場者を約 40 名程度に想定して椅子を配置し、その周囲をバリアフリー図書や機器の展示スペースとして活用し、部屋のレイアウトを行いました。すべての講演時においてもほぼ満席となり、多くの方々に多様な読書環境について認識を深めて頂くことが出来たと考えます。

しかし講演時間が限られていたため、実際に機器や補助用具などを活用しながらの説明など具体的な説明を十分に行うことが出来ませんでした。

② バリアフリー図書や機器類の展示

講演時以外は、拡大文字を使用したバリアフリー図書や読書をサポートする機器・タブレット型端末、補助用具などの展示を行いました。視覚に障害のある子供を持つ親や視覚特別支援学校の教員などが訪れ、対面式での説明や、読書をする際の相談・質問などを受け付けました。しかし講演時には展示のみになってしまい、来場者と直接対話

することができなかつたため、今後は部屋を分けて実施するか仕切りを設けて行うことで、一人でも多くの方々への理解・普及に繋がっていくと考えられます。

■ 成果の広報・公表

「サイトワールド 2014」内で行った講演内容を録音し、成果物として CD に収録しました。

さらに、収録したものを文字に起こし、報告書を兼ねた今後の参考資料として冊子を製作しました。

自力での読書を可能にする最新の情報や活用法などを収録したこの冊子を、視覚に障害のある当事者・高齢者をはじめ福祉関係者や教育関係者などに継続的に活用して頂くのが目的です。完成した資料については、制作部数は少量ですが、主な盲学校・点字図書館などへ参考資料として活用して頂くべく配布を行いました。また当会のホームページへの掲載や、年 4 回発行の季刊誌「桜雲会だより」にて事業報告を行う予定です。桜雲会だよりへの掲載は 6 月を予定しています。また当会発行の医学関係誌「鍼灸の世界 豊桜」点字版の中へも掲載を行う予定です。こちらも 6 月頃の発行を予定しています。

■ 今後の展開

本事業で行った研修会では、視覚に障害のある当事者・高齢者をはじめ読書に困難さをもつ当事者に日常的に接している福祉施設関係者、行政関係者、特別支援学校教員や、サービスを提供する可能性のある公共図書館関係者に対する情報提供を目的に開催したが、まだまだ潜在的なニーズがあると考えられます。

今後継続してセミナーを企画し、開催を続けていくことによって、さらなるニーズの掘り起こしと

サポート技術について啓蒙を図っていきたいと考えます。

具体的には、ICT 技術の活用術や、公共図書館・点字図書館など公的サービス、NPO 法人などが運営する民間サービス、出版サービスやソーシャルメディアなどの活用法について、読書に困難さをもつ当事者にどうサポートしていくかについて、取り上げていきたいと思います。

また、本事業では「自力での読書」に特化したテーマであったため、今後は読書だけにとどまらず日常生活全般における情報入手能力を養う研修会を企画していきたいと考えます。